

## 府民会議メンバーによる鴨川に係る意見発表

(事前に提出いただいたもの)



## 鴨川府民会議意見

- 土居好江
- テーマ 1、鴨川プロジェクトの創設
  - ☆ 2、鴨川を通じた地域間外交と国際交流
  - ☆ 3、「川の駅」構想について

### ● 鴨川プロジェクト、

鴨川プロジェクトとは、川から京都の歴史や文化を知り、都市の中心を流れる川の恵みを再認識して環境問題、水問題の切り口とするプロジェクトとしたい。

イギリスが 21 世紀初頭にエデンプロジェクトを創設して、次の千年を考える環境問題、生態系の壮大な実験場としたように、京都から鴨川を切り口に世界に発信するプロジェクトとしたい。

まちの中心部で憩いのスポットとして、千年もの間、川と自然と人との共生の歴史と文化と有していることの智恵を発信することによって、21 世紀最大の課題である環境問題にヒントを引き出すプロジェクトとしたい。

イギリス・コーンウォール州の陶土地帯にできたエデンプロジェクトを、ウォーターフロントの視点から、京都メソッドとして水の環境問題を考えるプロジェクトにできないものか。

鴨川の川床や河川公園、川辺の文化史等、京都の鴨川の文化をイギリスのエデンプロジェクトを通して発信し、川と都市の共生等を展示して、エデンプロジェクトを発信基地としてコラボしていくことを提案したい。姉妹河川も提携してネットワークを広めたい。

またエデンプロジェクト側も京都に関心を寄せており、鴨川プロジェクトとしてコラボできないか提案したい。災害も多くなっている現在、鴨川プロジェクトを早急に立ち上げて、世界、日本の川等と連携を取ることを提案したい。

## 2、鴨川を通じた市民や地域間外交と国際交流の推進

都市の中を流れる川がある都市との連携で、水辺環境の向上や憩いの市民川広場として、川の文化、歴史、環境問題、川と自然等々の問題解決の糸口を探る意見交換と連携をはかり、川の持つ意味を問い直す機会としたい。もちろん専門家や川に関わる関係者とも交流を目指したい。

## 3、「川の駅」構想について

道の駅は、地産地消や郷土名産の売り場と休憩場として存在するが、川の駅は、公園の休憩場として、公衆トイレも併設して更に市民が鴨川に親しみやすい環境づくりを提案したい。鴨川を散歩する人や往来する人が朝から夕方まで多く、更に鴨川を市民の憩いの場、観光客の憩いとして整備していく必要があると考える。



Eden Project is...

- An educational charity (教育チャリティー)
- An international visitor destination (国際観光アトラクション)
- A project trying out new ideas and new ways of thinking  
(新しいアイデアやものの考え方を試すプロジェクト)
- Not a traditional botanic garden at all!  
(伝統的な植物園と一緒にしないでください！！)

氏名	西村 淳暉
テーマ	<p>(1) 「鴨川のさくら」の保全とさくら並木の新設について</p> <p>(2) 「鴨川 文化・博物研究センター」の設置について</p> <p>(3) 住民が参画する「自然文化遺産の開発」に向かって (各種団体・学校・地域と行政との協同)</p>
提言 したい 意見	<p>(1) 「鴨川のさくら」の保全とさくら並木の新設について</p> <p>鴨川流域の主たるさくら名所のうち中流域では、近年、整備されてきているが、上流域の「しはん桜」(葵橋以北)や「なからぎのベニシダレ」(北大路橋北)は、昨今衰弱してきている。後継樹の植樹(既存の並木との併行列植)や土壌の改良が必要と思われる。</p> <p>一方、特に、上流域でのさくら並木の新設により、鴨川さくら名所の復活と新展開で、府民や県外の人々へのすばらしい鑑賞の機会提供とともに、開花シーズン以外にも新緑・紅葉風景や緑陰、憩いの場の提供により、鴨川さらには京都ファンづくりの展開が期待できるであろう。</p> <p>具体的対策としては、現在のさくら並木の空白地帯それぞれにソメイヨシノ一種類の増植、もしくは開花時期の異なる品種を列植することを提案したい。(たとえば、カンザン・ゾーン、ショウゲツ・ゾーン、コヒガンザクラ・ゾーン等) こうして鴨川堤防は、1か月にわたってさくら開花風景が鑑賞できるであろう。</p> <p>(現行「鴨川公園」を「鴨川自然公園」に名称変更も検討)</p> <p>(2) 「鴨川 文化・博物研究センター」の設置について</p> <p>鴨川は、歴史的経過からも、京都の人々とのかかわりは誠に多岐にわたり文化発展への寄与は大である一方、時に公害や自然災害を発生せしめる存在でもある。</p> <p>鴨川の過去をふりかえり将来を見据えると、現在、鴨川にかかわる研究課題が山積しているといえよう。たとえば、景観問題、災害研究対策、自然環境破壊、森林生態系・水質、地球温暖化の影響、あるいはそれらの情報発信、住民との連携等である。時代を超えた歴史研究も重要である。</p> <p>このような課題をセンターといった包括機関によって、総合的、個別的に情報収集・研究を重ねて、関係機関に発信して漸進的なその発展を期待したいところである。あわせて情報公開や展示コーナーの設置により住民意識の高揚や生涯学習の場としても活用できよう。</p>

(3) 住民が参画する「自然文化遺産の開発」に向かって  
(各種団体・学校・地域と行政との協同)

鴨川は、京都にとってのみならず日本を代表する河川としての存在は重要である。

鴨川にかかわる各種団体の協議会機関等によりそれぞれの団体の基本理念を尊重しつつ組織的な整合性ある鴨川関係の施策展開が望まれる。

また、日常報道される「かもがわ美化運動」「かもがわ自然観察」「かもがわウオーキング」といった学校関係、地域自治組織、ボランティア等の活動がさらに組織的に発展されることが期待され、さらに住民個々人が「川」さらに「山」にもおおいに関心をもって、それらを慈しみ育てたいものである。

このような住民の地道な行動と行政による政策・プロジェクトそれぞれ相乗効果の継続により、鴨川を後世にすばらしい財産として残したいものである。

将来の「世界（自然・文化）遺産登録」を視野に入れ、今すぐにでも公民共通認識の行動展開が図れればと考えるところである。

【付】 鴨川公園の歴史文化回遊ルート

- 公園の起点、丸太町橋のほとり、頼山陽の書齋「山紫水明処」から東山連峰を眺めて北進、緑陰に親しみ、賀茂大橋からは「山」と「川」、いかえれば自然と人為文化のすばらしい融合風景を眺める。
- 世界遺産「下鴨神社」、糺の森に立寄り、出雲路橋へ。府下第1位の眺望である。(府アンケート)  
しはん桜を観て、北大路橋南（西）からは秀麗な比叡山。
- 植物園を経て、なからぎのベニシダレ。五山の船山が望める。世界遺産「上賀茂神社」の静謐な社と森、御園橋を渡ってUターン。改めて比叡山を主峰とする東山連峰と賀茂川を眺め続ける。

(どの部分を切り取っても、優れた回遊ルートである。)

- 課題
1. 上賀茂神社・下鴨神社・植物園それぞれと鴨川公園とのアクセス、参道への通路の整備開発
  2. 景観上、建築物の外観（賀茂大橋からなど）
  3. 橋の整備（北大路橋は先般、補修済み）
  4. 中州、寄州の圧縮と並木・植栽の育成

鴨川府民会議・提案

平成21年11月19日

■ 氏名 細田茂樹

■ テーマ 「鴨川自然公園への発想転換」

鴨川河川敷の行き過ぎた「人工庭園化（都市公園化）」を危惧し、「鴨川自然公園」への発想の転換を提案します。

■ 提案したい意見

京都という大都市を貫流している清流「鴨川」、緑したたる北山山地の大自然を水源として遙か太古よりこの山城盆地を滔々と流れています。

しかし、山紫水明の地とうたわれてきて、京都の自然景観を代表しているとも言ふべきこの鴨川も、一方では暴れ川としての側面をも持ち合わせており、氾濫する事により過去幾多の自然災害をもたらしています。

このように、大都市を流れ京都市民の素晴らしい憩いの場所としての「清流・鴨川」、そして放置すれば必ず災害をもたらす「暴れ川としての鴨川」。この二つの側面を持つ鴨川のあるべき姿を模索しているのが、この「鴨川府民会議」の基本テーマであると認識しています。

この二つの側面を考える過程において、鴨川河川敷を、或いは鴨川そのものを「都市公園化」という考え方があります。

そして、この鴨川と鴨川河川敷を「都市公園化」という発想は、現実として着々と進みつつあります。

この事については、河川敷の有効利用、及び、防災対策という側面からも当然肯定されるべきと思いますし、その事自体には何の異論もありません。

しかし、現実問題としての河川敷整備の進捗状況を検証してみる時、余りにも人間の手が入り過ぎた「人工庭園」となっている事に危惧を覚えます。

もちろん、防災という観点から、そして市民の憩いの場所としての公園として整備する事に関しては全く異論をはさむ余地が無いとはいうものの、鴨川という大自然に対する必要以上の「人工庭園化」には少し抵抗を感じます。

歴史の都である京都を流れる市民の憩いの場所としての鴨川の、今後の五百年、そして千年を考える時、「鴨川の公園化」という発想は当然肯定されるというものの、こわしてしまっではもう二度と戻ってこないであろう「鴨川のすばらしい自然」は最大限に残すべきと考えます。

極論かも知れませんが、あの自然に満ち溢れた鴨川が、ランドと、石畳と、芝生と、そして川の流れ、のみの都市公園にもなりかねない現状を憂えます。

従って、今後、河川敷の整備・公園化をはかりつつも、防災という観点を重視しつつ、「無機質な人工庭園」ではなく、もっともっとかげがえのない鴨川の自然を残し、一度はこわしてしまっかも知れない鴨川河川敷の自然も出来る限り再生し、鴨川の素晴らしい自然と、そして癒しを求めての人間が調和する、安全な「鴨川自然公園」という姿を、改めて模索すべきと考えます。

その為には、現在の鴨川、そして鴨川河川敷を再度細部に渡って実地検証する事により、残すべき鴨川の自然を最大限に活用、或いは人間が消してしまっ鴨川の自然を再生し、人間の憩いと鴨川の自然が正しく調和・融合した、「鴨川人工公園」ではなく、「安全な鴨川自然公園」を作るべく、今こそ大きく発想の転換をはかるべきと考えます。これこそ、現代に生きる我々が、千年後の京都市民に胸を張って贈ることの出来る、「自然遺産・鴨川」そのものではないでしょうか。

以 上



## 提 言

氏名 堀 正勝

テーマ 京都 鴨(賀茂)川の「山紫水明」の景観を世界遺産へ  
提言したい意見

30年振りに京都に戻り、西賀茂の賀茂川沿いに住み、賀茂川と周囲の山等が織なす**山紫水明**の景観の素晴らしさに日々感嘆、認識させられています。京都にずっと住んでいると**山紫水明**の景観は空気の様に当り前の素晴らしさで、世界遺産級とは認識されず、案外ぞんざいに思われ扱われて来ました。鴨川条例がその認識を改める契機と思われ、提言させて頂きます。

**山紫水明**は丸太町橋近辺に居を構えていた頼山陽がきらきら光るせせらぎの流の鴨(賀茂)川と紫に少し霞み優しくみえる背後の山の織成す景観を**山紫水明**と称賛したものです。嵐山の渡月橋近辺の桂川とその対岸に迫る山の景観は山水画の**山緑水蒼**の景観です。日本中至る処、美しい山と川がありますが、京都(盆地)を造って来たこの川と山の景観だけが**山紫水明**です。京都の**山紫水明**ではなく、**山紫水明**の京都です。嵐山は京都の嵐山であって、嵐山の京都ではありませんが、鴨(賀茂)川の**山紫水明**の界限より、渡月橋の界限の方が多くの人が愉しんでいます。鴨川条例が出来て、**山紫水明**の課題を認識解決するチャンスと思います。

賀茂街道にはたわわに繁った大木が並ぶ緑のトンネルが未だ結構残っています。そこからの鴨(賀茂)川と背景の北山から、大文字の如意が岳へとつながる峰々の山々がなす**山紫水明**の景観は格別です。賀茂街道の景観は平安京遷都時に先住豪族の賀茂氏へ敬意を表する天皇の勅使の行列(葵祭の行列?)がこの景観を愛でながらのんびり進んだ往時が偲ばれる貴重な**山紫水明**の景観です。この**山紫水明**の景観は京都の原点であり、金閣・銀閣、清水寺、上賀茂神社、下鴨神社等京都の世界遺産の原点です。平安京創建の往時が偲ばれる賀茂街道からの鴨(賀茂)川と北山から比叡山、如意が岳へと連なる山々の心地好い**山紫水明**の景観は世界遺産たるべきで、京都を代表する世界遺産と思います。

鴨(賀茂)川は葵橋より上流から西に振り始め、出雲路橋、～西賀茂橋、賀茂川通学路橋と橋毎に西への振り具合も微妙に変わり、賀茂川から見える北山や東山は橋毎に異なり変わります。上る時は船形山が真正面に愉しめたり、神山が見えたり隠れたりし、又下る時は如意が岳の大文字が真正面に観えたりし、**山紫水明**の景観は飽きません。

その**山紫水明**の景観も鴨(賀茂)川や背後の山での荒廃や衰えは見た目以上に深刻な危機的状况で、早急に**山紫水明**の景観を守る対策が必要になっています。

鴨(賀茂)川沿いの日露戦争戦勝記念の桜並木も大分衰えています。半木の枝垂桜の並木も気になります。鴨(賀茂)川沿いの緑を元気にするには広大な緑をもつ植物園と一体管理するのが有効だと思います。植物園辺りを中央に葵橋から賀茂通学路橋迄(その間 4.6k)の鴨(賀茂)川や賀茂街道沿いに桜等の並木を植物園のノウハウを生かして効率的に整備、管理出来ます。橋毎に温度が1℃違う鴨(賀茂)川で、下流から上流へ次々と桜が咲く 4.6kもの桜並木は、桜の名所の弘前城をも上回る桜の名所にも出来、更に**山紫水明**の景観に大きな魅力をプラス出来ます。又この桜並木は鴨(賀茂)川の夜間の厳しい冷え込みで、秋は紅葉の名所にもなります。

従来の京都観光は嵐山、金閣寺、清水寺等有名観光地をバス等でのほしご、祇園や東山の有名料亭で高級京料理と、体と地球に優しいとは云えない京都観光でした。旬の上賀茂や西賀茂の野菜の美味しさは格別です。**山紫水明**の景観観光は植物園を拠点に、上・下流域へ、4.6km、賀茂街道や高水敷(河川敷)をのんびり歩き、**山紫水明**の景観を心地好く愉しめます。そして体に良い採れたての賀茂野菜の料理を賀茂の地で味わう**山紫水明**の京都観光は京都の原点を観て感じ味わい愉しむ、体と地球に優しい新しい京都観光です。新しい京都観光のファンも増え、その観光収入増で**山紫水明**の景観の維持管理も出来ます。

最近如意が岳の大文字の下辺で赤っぽく見えているのはカシノナガ木食い虫により枯らされた椎の木々です。カシノナガ木食い虫の被害は東山から北山の方にも拡大し、今年は奥の花背の山でも見かけたと聞いています。害虫による枯木被害の拡大は山や森林が手入れされず放置されて来たからです。

昨年、鴨(賀茂)川の源上流域の見せて頂き、源上流域の山に倒木が多く、間伐されず密生して薄暗く、下草も生えず山肌の表土が露出、雨で表土が流出し木の根も露出、倒木に至る山

荒れの悪循環に陥っていました。又源上流域に産業廃棄物や建設資材等の置場があり、その有害物等が雨で染み出し、鴨(賀茂)川が汚染される危険が高い様でした。源上流域でのそうした危険と危惧される施設の全面禁止と既存施設の撤去を早急にする必要があります。

今回の兵庫県佐用町の洪水は1000年に一度の大雨とかですが、流出堆積土砂の放置が被害を拡大させたとの指摘もありました。100年や1000年に一度の大雨も局地的ゲリラ豪雨が多くなり局地的には珍しくなった昨今です。まず堆積土砂を早急に除去し、次に土砂の流出を減らす必要があります。

苗木10本を植林し、30～50年後に成木1本を木材として売る迄、山の手入れしながら9本を間伐、薪炭にし、燃料として売るのが林業で、薪炭が使われなくなって、林業が廃れ、山の手入れもされず山荒れ悪循環になりました。安い輸入外材で、国産材が売れず林業が廃れ、山が荒れたのではなく、都市に住む我々が風呂や暖房で薪や炭の使用を止め、ガスや電気にしたライフスタイルが山荒れの根本原因です。林業の復活には山の再生が必要です。熱帯や寒冷地の森林の再生は時間が掛かり難しいのに対し、日本の森林は50年位で再生可能なエコ森林で、間伐材を薪炭以外に燃料として利用する等に適しています。そこが日本の林業復活のポイントです。間伐材(チップ)で発電する技術の開発・発電・送電・利用迄を行政も環境保全の一環として積極的に支援し、林業者で間伐材(チップ)で発電する小規模火力発電所(現代版炭焼小屋)を山際に造り、その発電した電気を都市住民が購入利用出来るシステムが有効な対策になります。

新聞やテレビの報道で津市で猿の被害にあっている農家は猿の捕獲を要望し、動物保護団体が反対しているとありました。その地域で農作物を荒らさなくても養える以上に猿の数が増え、生態系が壊れた事が原因で、その地域の構造に合った生態系を把握し、くずれない様にきめ細かい管理が必要です。

鴨(賀茂)川は石垣で固められた低水路は幅20～30m位しかなく、中州が肥大化・陸地化して堤防から見えない流水幅が2～3mの所も多い小さい川ですが、堤防上の並木も大木の所やそうでない所、住居もすぐ接している所や堤防の下で舗装道路も間にある所、高水敷も広い所や狭い所、又上賀茂の小さい山々、植物園の森、糺の森等川の近くに森や山のある所等上賀茂通学橋から西賀茂橋、～出雲路橋、葵橋迄の橋間で河川区域の構造が色々違い、小さい川でもその生態系も様々になっています。

鳥害も大変な処とそうでない処があり、賀茂川を水場に行っている地の鳥も多く、地の鳥に飛来する水鳥や野鳥も含め、鴨(賀茂)川が養い得る鳥の適正な数を夫々の構造と生態系に則って考える必要があります。今回の中州の除去でも一律2割の中州を残す等は少し疑問を禁じえません。鴨(賀茂)川の生態系が壊されると、山紫水明の景観も壊れてしまいます。

自然と聞くと砂漠、黄砂、台風、雨、雪、洪水、日照り等が連想させられ、自然は怖いイメージが強いです。鴨(賀茂)川の山紫水明の景観は自然でなく、人手で作られ維持されて来た緑の溢れる景観です。堤防敷の草木も定期的手入れされているので害虫等も抑えられ綺麗な緑の景観の体をなしていると思います。京都新聞(10月25日)に「嵐山の渡月橋の対岸にある国有山林も枯れ木が増え、嵐山の景観 将来に不安、森林の世代交代進まず、手入れし効果的に新陳代謝が出来るようにする必要があります」とありました。山や森林や川は手入れを怠り、その生態系が壊れると致命的な破壊に至ります。山紫水明の山の緑も手入れなしには枯れ木の山になりかねません。

現在では歩行者に危険な集団走行も少なく、整備もジョギングロードの整備と云うより、山紫水明の鴨(賀茂)川では幅ゆっつりの快適な歩行路の整備とした方が良いと思います。

西賀茂橋から一筋下流の西側堤防に高水敷に降りる階段を造ったら、土木事務所から撤去させられたそうです。何箇所か堤防から下りる階段が造られています。スロープのある西賀茂橋迄一筋遠回りすのも案外大変なお年寄りも多いです。そうしたお年寄り程、鴨(賀茂)川を散歩する必要があると思われれます。お年寄りへの配慮、西賀茂橋西岸一筋下った通にも賀茂川に降りる階段設置をお願いします。

御蘭橋の西側橋下に不法占拠者が橋下の通路を半分以上占拠し、空き缶を一杯集めて来て置いたりし、汚い荷物を橋下一杯に拡げ、傍若無人の様子に傍を通るのに危険を感じると人も少なくないので、その移動をお願いしたいです。